

## 1. はじめに

本法人では、2015年度から、開学100周年にあたる2026年を目標年とする戦略プラン「Meijo Strategy-2026」（以下「MS-26戦略プラン」とする）を推進しています。計画期間の約半分が経過した現在、これまでの進捗状況を点検し、MS-26戦略プランを補完するために、より重点を置く目標達成のための具体的内容を「中期事業計画」として改めて明確化することとしました。

## 2. 理念・ビジョン

本法人は、立学の精神「穏健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する」に基づいた教育・研究活動を礎とした一層の発展と社会への貢献を大切にしています。

そのために、2026年の開学100周年に向け、「MS-26戦略プラン」を策定、推進しています。策定時に実施したステークホルダーへの調査からは、本法人の強みが「多様性」にあり、学生・生徒たちが様々なコミュニティの中での多様な経験を通じて成長していることを改めて確認し、こうした強みをさらに推し進めることが社会からも期待されていることがわかりました。

そこで、2026年までのビジョンとして、「大学：多様な経験を通して、学生が大きく羽ばたく『学びのコミュニティ』を創り広げる（以下「学びのコミュニティ」とする）」、「高校：『多様な経験』を創り出す『挑戦する学校』（以下「挑戦する学校」とする）」を掲げ、その実現を目指しています。

また、2019年度には本法人の2027年以降の将来ビジョン「中部から世界へ 創造型実学の名城大学」を策定しました。策定にあたり実施した学外有識者へのインタビュー調査から、社会が本法人に対し、「時代に即し基礎に裏付けられた『実学』により、社会で新たな課題に立ち向かい、解決策を実行できる人材を育成すること」を期待していることがわかりました。

そこで、「創造型実学」という言葉を、「様々な課題に直面したとき、物事を中心に立ち、解決するための知識、技術、アイデアを集め、具体化する力、それを身につける学び」と定義しました。これには、今後さらに増加する「答えのない問い」に対しても、学生が自ら課題を設定し、先見性・多様性・専門性をもって最善解を導き、それを実行・実現できる能力を育成する、という思いを込めています。この能力は、理論を身につけ、これをリアルで実践することにより改めて理論を構築するといった「学びの往復」によって獲得されると考えています。

こうして策定された「学びのコミュニティ」「挑戦する学校」の実現を経て、「創造型実学の名城大学」に向かうためのアプローチが、この中期事業計画です。



▲創造型実学（概念図）

## 3. 内外環境分析

計画策定にあたり、本法人の現状や将来に向けた課題を把握するため、内外の環境分析を行いました。

### (1) 外部環境

少子化及び進学率の頭打ちにより受験人口が減少傾向にあることに加え、国の政策や社会情勢の変化の影響を受け、教育機関の間での競争は一層激化することが予想されます。また、社会の変容に伴い、多様性（ダイバーシティ）への対応や Society 5.0 の実現に向けた人材育成が期待されており、各教育機関はその適応力を試されて

います。特に新型コロナウイルス感染症拡大により、社会の不確実性が高まる一方で、デジタル革新は拍車がかかり、こうした時代を生き抜く力が学生・生徒には必要になってきています。

このように、教育機関は大変厳しい状況にあります。一方で社会からの期待は大きく、今後は急速に変化する時代に即した迅速かつ柔軟な対応が求められています。

## (2) 内部環境

「MS-26 戦略プラン」の推進が、学生・生徒の確保、独創的・先進的な研究の推進、地域支援・社会貢献活動の充実、組織の活性化等の成果に繋がっています。特に教育については、学生・生徒に正課内外の「多様な経験」や「多様な人たちとの共同による学びの場」を提供し、主体性を育てています。

一方で、現在の取り組みをさらに活性化させ、より広く・深く追求することで、ビジョンの実現に一層近づけることができると考えます。また、急速に進む ICT 化への対応や、新型コロナウイルス感染症に対する取り組み等、社会変化に応じた新たな課題についても、適切に対応していく必要があります。

## 4. キーワードの設定

本法人の理念・ビジョン及び社会から求められている姿を実現するため、内外の環境分析を踏まえ、重点を置く次の2つのキーワードを挙げました。

### ①多様性

2026年、人々の価値観は、現在よりもさらに多様化が進んでいることでしょう。人々の「違い」は「個性」として尊重され、互いにそれを認め合うだけでなく、課題解決において、多様な価値観を積極的に活用する時代です。SDGs 達成に寄与するような、国や人種を超えた大きな課題に立ち向かい、解決できる人材を育成するための「創造型実学」には、自分とは違う価値観や立場の人と協働し、知恵を出し合って解決していく力が不可欠です。

名城大学では、総合大学としての強みである多様性を活かし、特定の場所や人に限定せず、様々な場所で、様々な背景を持った人と協働する「学びのコミュニティ」を数多く創出しています。多様な経験を通して、バランス感覚を持ち、他者と協働する実行力を身につけています。

また、附属高校においては、「面倒見の良さ」という強みを活かしながら、正課・正課外を問わず「多様な経験」を創り出すため挑戦し続けています。こうした「学びの場」を通じて、多様な他者と協働する力と、「突破力」を兼ね備えた生徒を育成します。

### ②数理・データサイエンス・AI

近年急速に進んできた ICT の革新は、今後もさらにスピードを増し、2026年には「society5.0」という全く新しい社会が始まっていることでしょう。IoT で全ての人とモノが繋がり、街のあらゆる場所でロボットが活躍、AI が様々な情報を提供してくれる世界です。人々は当たり前のように情報技術を活用しています。

このような時代において、「創造型実学」の要素として、数理・データサイエンス・AI の素養は欠かせません。名城大学及び附属高校では、すべての学生・生徒に、文理を問わず、これらの素養を育む教育を実施します。また、これらのエキスパート人材についても、その育成に努めます。

この2つのキーワードを軸に、「2026年にあるべき姿」を検討し、その実現に資する計画を「アクションプラン」としてまとめました。

## 5. 2026年にあるべき姿

本計画が完了する2026年に、本法人が「あるべき姿」を具体的に想起しました。「ビジョンストーリー」としてその情景を描き、数値化した目標として「到達目標」を以下のとおり設定します。

### (1) ビジョンストーリー

2026年、名城大学には、多様性に溢れ、数理・データサイエンス・AIの知識・技能を最大限活用した、数多くの「学びのコミュニティ」が広がっているでしょう。附属高校では、生徒が多様な「挑戦」を続け、課題を乗り越えていく場面が繰り広げられていることでしょう。

※写真はイメージです。

#### <教育研究の場で次々と生まれる学びのコミュニティ>

ある研究室では、このたび発表した新たな発見が、その新規性に加え、発見に至ったエピソードについてSNSで話題となっています。それは、一人の学生が実験に失敗してしまい、研究室全員でその片付けを行っていたところ、ある物質の特殊な反応に偶然気づいたというものです。そして、その日のうちに、別の研究室と協力し、AIを駆使して検証した結果、新たな発見として証明されたのでした。

学生は、自宅等で事前にオンラインで関連知識を学び、大学では実験等で実践力を育むことに時間を割いています。この発見は、研究室で実際に手を動かし、リアルなコミュニケーションの大切さを再認識するきっかけとなりました。



#### <キャンパスを飛び出し様々な人々と共に創り広げる学びのコミュニティ>



ある小さな海沿いの町の集会所では、学生達が、地域が抱える課題の解決策について住民にプレゼンを行っています。これは、学生が発案した町おこしの一環で、アイデアはすぐに学内に広がり、2つの学部のゼミを巻き込む形でスタートしました。この日プレゼンを聞いた住民は、「当初、『ICTを用いた課題解決』と聞いて、私には学生さんの難しい話はわからない、と思っていた。でも皆さんが、何度もこの町に足を運び、私たちの話を聞いて一緒に考えてくれて、私自身、今まで忘れていたようなワクワクする気持ちを思い出すことができた。」と笑顔で語り

りました。別の住民は、「我々は古びたこの町の課題が何かということを理解していなかった。みなさんはそれをデータ化し、分析し、議論を重ねて解決策を導き出した。みなさんはこれからも、仲間と共に夢を確実に実現していくのだろうと思った。」と話しました。学生は照れながら、「私たちは、それぞれが持つ知識や経験を活かし、どうしたらベストな解決策を提案できるか徹底的に話し合った。そして、失敗を恐れず、アイデアをどんどん実行したことが、今回の提案に繋がったと思う。名城大学には様々な学びの場が用意されているし、そこでの経験を活かし、自らコミュニティを創り出すこともできる。そして、それを支援してくれる先生やスタッフ、先輩、友達、それから社会で活躍する多くの卒業生がいて、みんな有機的に繋がっている。」と誇らしげに語りました。

## <Think globally, Act locally を実践する学びのコミュニティ>

附属高校では、SDGs を共通テーマとして学年をまたいで探究活動を行い、個人やグループで課題設定、調査、レポート作成、発表を行っています。あるグループはテレビで見た途上国（ザンビア共和国）の様子から BOP ビジネス（※）に着目しました。ザンビアの記事、関係する論文に目を通し、関係機関、企業にも取材に出かけて、生徒たちは一旦レポートを作成しました。しかし、その途中に一人の生徒がつぶやいたのです。「これって現地を知らなきゃ、自分たちで動かなきゃ、何も変わらないよね」。生徒たちはこの声をもとに、具体的な活動に繋げることにしました。彼らは自主的に課外の時間を使って議論を深め、関連分野の大学教員にも相談した結果、現地の NGO と繋がり、改めて取材をして、ソーシャルビジネスを展開しつつ探究活動を深めることを決めたのです。ソーシャルビジネスを立ち上げることで、これは、高校生の彼らにとって大きな「挑戦」でした。校内で広報し、外部の大会へも出場して、クラスや学校、世代を越えた仲間や協力者を増やし、その後、海外研修として実施した現地調査を踏まえてデータを分析し直し、自分たちにできる形でのソーシャルビジネスを起業したのです。



この一連の活動は新聞に取り上げられ、ザンビアのメディアからも取材を受けました。一人の生徒は「SDGs のゴールの期限はまもなく。でもその時には自分たちは大人としてこの世界を担っている。高校生も社会に生きる一人の市民。それならばたくさんの人と繋がりつつ、一面的かもしれないけれどできることを始めたかった。これまでの附属高校の探究の歴史があるので、先生たちも地域も大学も協力してくれる。挑戦しないと面白くない。」と熱く語りました。

※BOP ビジネス：途上国の BOP 層（年間所得が購買力平価（PPP）ベースで、3,000 ドル以下の低所得層は BOP（Base of the Economic Pyramid）層と呼ばれ、開発途上国を中心に、世界人口の約 7 割を占めるとも言われています。）にとって有益な製品・サービスを提供することで、当該国の生活水準の向上に貢献しつつ、企業の発展も達する持続的なビジネスのことです。（日本貿易振興機構（ジェトロ）のホームページより）

## (2) 到達目標 ※[ ]は 2019 年度実績

### 【大学】

- ・ 学生の大学に対する満足度 95%以上 [92.6%]
- ・ 学位授与方針の達成度（学生の学修成果\*1）90%以上 [DP1：89.3%、DP2：79.5%、DP3：85.8%]（\*2）
- ・ 本学を卒業することの誇り 90%以上 [81.0%]
- ・ 本学卒業生としての誇り（卒業後の帰属意識）90%以上 [80.7%]
- ・ 在学中の学びを振り返っての成長実感 100% [89.8%]
- ・ 就職満足度 98%以上 [97.0%]

（\*1）「学生の学修成果」はアセスメント・ポリシーに基づき複数の指標にて計測するが、ここでは卒業時アンケートの結果を用いる。

（\*2）名城大学全体の学位授与方針（DP）：1. 幅広い教養を身につけ、広い視野に立って物事の公正な判断をすることができる。  
2. 専門分野に熟達し、社会における諸問題の解決のためにその知識・能力を活用できる。  
3. 主体的に学び続け、学んだことを分かち合い、共に成長することができる。

## 【高校】

- ・ 卒業時の生徒の学校に対する満足度 90%以上 [-]
- ・ 卒業時の保護者の学校に対する満足度 90%以上 [-]
- ・ 国公立大学及び大学校合格者数 100 人以上 [91 人]

## 6. アクションプラン 別紙

「多様性」、「数理・データサイエンス・AI」という 2 つのキーワードを軸に、網羅的な戦略である「MS-26 戦略プラン」から、「2026 年にあるべき姿」の実現に向けて特に必要な施策を抽出しました。併せて、各部署で 2 つのキーワードを解釈し、取り組み可能な施策を検討しました。これらを踏まえ、設置学校毎にアクションプランとしてまとめました。

## 7. 計画実現に向けた財務基盤の強化

本計画記載の事業を始めとする教育研究活動は、安定した財務基盤の上に可能となります。外部環境に目を転じると、学齢人口の減少を始め、年々財政に及ぼす影響は大きくなってきており、これまで以上に財政基盤の強化策が求められてきています。

他の学校法人と同様に、本法人の収入に対する学生生徒等納付金比率は高く、安定的な学校運営のためには、一定数の学生を確保することが最も重要です。その上で、寄付金及び外部資金を積極的に獲得することで収入構造の多様化を図るとともに、支出内容を絶えず見直し経費削減に努める必要があります。限られたリソースを戦略経営の視点で分配し、さらなる教育研究環境の充実を実現していきます。

以上

## アクションプラン [概要版]

- ・MS・26 戦略プランの中から、今後、2026 年に向け特に重点的に取り組む内容について抽出している。
- ・重視するキーワード「①**多様性** ②数理・データサイエンス・AI(以下「**数理**」とする)」の実現に資する施策には印を付した。また、その他重要な項目についても強調している。

## &lt;大学&gt;

## 人材の確保と育成

目的意識と行動力と社会性に優れた学生を確保し、ビジョンを実現できる教職員を育成する

- ・ 多様な素養を持つ質の高い学生を安定的に確保するため、入試改革を推進する。**多様性**
- ・ 多様な人材の活用による研究力・教育力強化のため、各種制度の導入及び改善を実施する(URA(ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーター)制度、特任助手制度等)。
- ・ 専門性を持つ優れた事務職員を確保する。

## 教育の充実

多様性と実践性を大事にする基礎教育と専門教育を通して、コミュニケーション力と問題解決力をもつ人材を育成する

- ・ 社会のニーズを踏まえ教養教育を見直す(数理・データサイエンス・AI 教育等)。**数理**
- ・ 学生の主体性と実践性を育む教育改善を推進する(アクティブ・ラーニング・反転授業の推進、副専攻制度の全学展開)。**多様性**
- ・ 多様な学生に対するキャリア支援を拡充する(学修ポートフォリオの全学導入、カウンセリングの充実等)。
- ・ ビジョン達成に資する学びのコミュニティ創出支援事業等を活性化する。**多様性**・**数理**
- ・アントレプレナーシップを持った次世代人材を育成する。
- ・ 国外派遣学生及び受入れ留学生を増加させる(交換留学制度の拡充等)。**多様性**
- ・ 退学者減少のため、退学理由の分析及び対策を推進する(学生指導体制の充実、メンタルヘルス対応等)。

## 研究の充実

研究環境の充実を通して、社会に評価される学術の創造と普及を図り、教育と社会に還元する

- ・ 研究の更なる活性化に向けた組織的施策を実施・検証する(外部資金獲得に向けた教員サポート体制・制度の充実、URA 導入及び活用[再掲])。
- ・ 産官学連携による総合大学の強みを生かした研究(共同研究)を促進する(URA 導入及び活用[再掲]、リサーチフェアの推進等)。**多様性**
- ・ LED・カーボンナノチューブに加え、新たな世界的研究拠点を形成する。

## 社会貢献

地域とともにある大学として、地域の多様なニーズに対応し、人的交流を通して活性化につながるサービスを充実する

- ・ 社会的要請への対応や地域課題の解決等に向けた行政・企業等との各種社会連携事業及び包括連携協定の締結を推進する。
- ・ 社会のニーズを捉えた社会人向けの公開講座等を企画・運営する。

## 組織・経営改革

ビジョンの実現に向け、戦略的かつ機動的な組織・経営改革を持続する

- ・ 情報工学部を設置する。**数理**
- ・ 大学規模の維持及び適正規模の検証・提案、全学的視点による既設学部・学科の再編を推進する。
- ・ 大学院の適正規模を検証・提案する。**多様性**
- ・ 事務職員人事制度(給与体系、人事考課制度、専門人材 等)を見直す。
- ・ 教学マネジメントを実質化する(学修成果の可視化による教育改善)。
- ・ ブランド力向上に向けた戦略的広報を展開し WEB サイトや SNS 活用方法を見直すとともにメディアとの関係を構築する。
- ・ 文部科学省及び各種関係団体の動向や情報を収集する。
- ・ 新たな卒業生組織を設置・拡大し、卒業生との連携を強化する。
- ・ コンプライアンス基本原則を策定し、その推進に係る研修等を実施する。
- ・ ICT 活用を推進する(教育・研究環境の向上、学生支援、法人運営支援、社会への情報発信、業務効率化、セキュリティ強化等)。**数理**
- ・ 新築建物の円滑な稼働及び既設建物の効率的な運用管理により教育施設環境を向上する。
- ・ 安定的な財政基盤を維持・強化する。**【法人全体】**
- ・ 100 周年事業を推進する。

## <附属高等学校>

### 人材の確保と育成

目的意識と行動力、社会性に優れた生徒・教育職員を確保し、育成する

- ・ 質の高い志願者を安定的に確保するため、入試の見直しや戦略的入試広報を実施する(中学校への訪問、公開見学会の実施、中学生の訪問受入れ、学習塾へのアプローチ等)。**多様性**

### 教育の充実

授業・HR・課外活動などを通して、幅広い教養、コミュニケーション力、問題解決力をもつ人材を育成する

- ・ 生徒の多様化が進む中、全員に幅広い教養、コミュニケーション力、問題解決力を身につけさせるため、生徒一人ひとりの学習・生活状況に応じた指導を実施する。**多様性**
- ・ 教育の特色化を推進する(教育活動指針の策定、探究型学習プログラム・国際関係プログラム)。**多様性**・**数理**

### 社会貢献

社会に貢献できる生徒を育成し、交流や学習活動を通して社会的責任を果たす

- ・ 地域との交流プログラムを開発・実施するとともに参加生徒数を増加させる。

### 組織・体制整備

ビジョンの実現に向け、戦略的かつ機動的な組織・体制を持続する

- ・ 新築建物の円滑な稼働及び既設建物の効率的な運用管理により教育施設環境を向上する。
- ・ 安定的な財政基盤を維持・強化する。**【法人全体】**
- ・ 100周年事業を推進する。